

KEY 大阪通信（瓦版） 2013 年 6 月号

■KEY 合同大会のご案内

平素は私たち 在日コリアン青年連合（KEY）の諸活動にご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さてこの間、私たちを取り巻く外的環境と内部状況を考慮して、1. 在日コリアン社会の多様性を表現し得る団体としての組織形態を模索し、2. 持続可能且つ明確な組織アイデンティティをもとにした組織の枠組みを構築すること、3. 幹部の量と質のバリエーションに対応する活動モデルの設計を行うことを目標に、組織改革論議を積み重ねてまいりました。論議過程で導き出した結論を携え、今年 7 月より新たな組織体制で再出発することを決定いたしました。

具体的には教育と実践の連結を図り、在日コリアン青年の社会意識を具体的な社会的活力として誘導しつつ、会員ひとりひとりの成長・自己実現を図る枠組みとしての“KEY-s”を地方組織内に複数立ち上げ、新たな拠点としての役割を付与し、地方組織の独自活動を強力に推進していきます。さらには地域組織を解消し、地方組織に再編する試みとなります。

つきましては、下記の通り KEY 合同大会を開催致します。ご多忙中とは存じますが、ご出席頂ければ幸いです。

●日 時：2013 年 6 月 30 日（日） 午後 2 時より

●場 所：尼崎市立中小企業センター・会議室 401（阪神尼崎駅より北東へ 350m、徒歩 5 分）

※尚、2 次会を 17：30 より居酒屋「権兵衛」にて予定しています。

■事務所の引越しに関して

4 月より地域活動を生野、北大阪、東大阪地域の 3 地域が合同で各種活動を展開していますが、6 月末の KEY 合同大会を機に KEY 大阪として新たなスタートを切ることが決定しました。

当面の間ということで北大阪事務所に 3 地域合同でハングル講座や歴史人権講座を開催してきましたが、KEY 大阪体制の出帆に合わせ、引越しすることが正式決定しました。場所は鶴橋駅から歩いて 5 分の距離にある所を予定しています。引越し先が正式決定しましたら別途案内させていただきます。

7/2 のハングル講座後は、今の事務所で行う最後の活動となりますので、ささやかながらお別れパーティーをしたいと思いますので、ぜひとも参加よろしくお願いします。

また、7/6, 7 の両日は引越し作業を行います。奮ってご協力のほどよろしくお願いいたします。

■歴史人権講座 テーマ未定

●日時：2013 年 6 月 14 日（金） 午後 8 時より

●場所：KEY 北大阪事務所

5/13 の橋下徹大阪市長の慰安婦問題をめぐるとの発言をめぐって、改めて、そもそも「従軍慰安婦問題って何？」という基本的なところから学ぶ講座か、ルーツを知ることによってアイデンティティについて考えるという趣旨を持った在日コリアンの歴史を学ぶ講座を開催しようと考えています。ぜひ参加ください！！

活動報告

■ 5/21 ハングル講座

あんにょんはせよ？ういんです。
今日はハングル講座でした。皆さん額に汗しながらハングルをやっているのが印象的でした(^^)今日はハングル講座後に自己紹介コーナーをしましたよ。



空欄に当てはまるハングルを入れ、会話を行うのです。他のクラスの人と3人以上行います。交流も深まるので名案。



終了後はみんなでホットックを作って食べたわいなー。
ホットックって知ってますか？

韓国のホットケーキみたいなもんです。違うか？甘くて食感がいいです。さすがにご飯とは合わないけどまあ、こんな感じでハングル講座後も様々なことを行ってるので一緒にいかが？

■ 5/25 再び戦争への道を歩まないために「何度でも語る 歴史の事実はこちらです」集会

ドーンセンターにて日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク主催の集会がありました。主催者側発表総勢 515 名の参加者があり、大盛況でした。

証言には金福童ハルモニと吉元玉ハルモニが演壇に立たれました。おふたり共通して語っていたことは、戦争があったからこそ自分たちのような存在が生まれた。戦争をなくさない限り平和は来ないということでした。

吉見教授の講演では「慰安婦」問題をめぐる橋下大阪市長の主張の要点整理を行った上で、それに対する批判観点を歴史やアメリカでの認識を交えて話されました。

尹美香さんの講演では日本は歴史を清算してこなかったゆえ、政治家の妄言や構造があると指摘。これか

ら求められることとして政府からは加害国として認め、謝罪し解決のための法的処置をとること、市民側からは妄言を草の根レベルで変えていくこと、当事者に寄り添い被害意識を変えることが重要と呼びかけ、自身の活動紹介や協力呼びかけを訴えられました。

吉見教授と尹美香さんの講演の合間には李政美さん、安聖民によるコンサートが行われ、証言に立たれたハルモニや会場を大いに盛り上げました。

■ 5/26 朝鮮学校フィールドワーク



大阪市東成区にある中大阪朝鮮初級学校のフィールドワークを行いました。フィールドワークでは、自らが中大阪朝鮮学校の卒業生でありながら、子ども2人を通わせている在日3世の姜スヘンさんより学校内に昨年2月に開設された民族教育歴史資料室の案内を中心に中大阪朝鮮初級学校の過去、現在、未来について語っていただきました。

フィールドワークの後は朝鮮学校の過去と現在という歴史を踏まえた討論の時間を持ち、フィールドワークの感想、朝鮮学校の歴史や無償化問題、意義、そして、今後、自分たちの子どもに対する民族教育について話し合いました。その中では、朝鮮学校が日本行政の補助から除外されているため、劣悪な教育環境で子どもたちが勉強せざるを得ない状況への複雑な気持ちや、民族教育の現場でありながら、在日朝鮮人の集えるコミュニティとして持つ意義や可能性など、様々な意見が交換されました。

姜さんは、朝鮮学校に通ったために、日本語も朝鮮語もできる。同胞先生の存在がいたため、見られる対象としてではなく、当事者としての在日朝鮮人について考えられるようになった。よって、「自分に迷いが無い」という。自然な環境で民族教育を行う朝鮮学校こそ、異なったことを認めない日本社会において、多様なマイノリティの権利を訴える存在ではないか。姜さんの「選択肢として朝鮮学校を残したい」という言葉から、過去から未来につなぐ民族教育の意義を感じました。